

2022 小樽市制100周年記念事業 あがた森魚監督映画

# 佐藤敬子 先生を探して

小樽先行上映会

8月19日(金)

小樽市民センターマリンホール

入場無料

▶上映時間

16:30 開場

17:00~19:00

19:10~20:00 あがた森魚 舞台挨拶  
ゲスト 山川隆氏

▶問合せ先/申し込み

熊谷 080-4045-1461

[murasakikurabu3.26@gmail.com](mailto:murasakikurabu3.26@gmail.com)



●出演

あがた森魚 佐藤敬子  
小樽市民の皆様  
井浦新

●協力

旧小樽市立入船小学校  
市立小樽文学館  
小樽市総合博物館  
おたる水族館  
クラウドファンディングにご協力の皆様  
制作にあたりご協力いただきました皆様

2017年10月25日、小樽市立入船小学校は閉校式を執り行い、翌年3月末に閉校した。

同年春、あがた森魚はこの閉校のニュースを知り、恩師佐藤敬子先生の映画を撮ろうと決意する。

2000年に、すでに亡くなられた佐藤敬子先生を訪ねるといふ、つかみどころの難しい題材を掲げ、あがた森魚は佐藤敬子先生の何を探そうとしていたのか。

本編は、夏から秋、冬、雪解けを巡る四季の中で出会った小樽人の唯一無二の小樽観をあがた森魚自らが取材し、そして二度とやって来ない入船小学校閉校式、翌年の卒業式をドキュメントした。

まるで小樽は、あがた森魚自身の化身のように、その盛衰の生き方を佇ませているように見えたのかもしれない。佐藤敬子先生を探しながら、南樽市場、小樽駅、そして入船町の坂道、高台、港の定点観測を繰り返し自分自身の影法師を追いかける。歌を繰り返し繰り返し飽きることなく

歌うように、ひたすら幻の佐藤敬子先生を探すあがた森魚。

映像は後半、あがた森魚のファインダーを通しての小樽、そしてかけがえのない日常を、同時に瞬きしながら見つめることになる。

それは、道端の石ころのように転がっている日常の欠片を集め、その断片の映像をつなぎながら、やがて未来の兄弟たちの「小樽という幸福論」、それは「小樽の未来論」そして、人類が本来持っている「朗らかな希求」のための歌を作り続けるあがた森魚の表現の源泉でもある。

撮影から5年の歳月を要した本編ではあるが、小樽市100歳というお祝いの2022年夏、誰であろうと、ここではないどこかであろうと、普遍の旅 Dejavu の出会いがまたはじまる。

乞うご期待です。

ご来場をお待ちしています。

【共催】 あがた森魚デビュー50周年プロジェクト・小樽市